

被爆80年 いまこそ核兵器のない世界を

「戦争の悲しさを平和の大切さを学び、伝えたい」

市内小学6年生の代表が広島平和記念式典に参加

今年は、アメリカが広島と長崎に原子爆弾を投下してから80年。1945年8月6日に広島、9日に長崎の上空で炸裂した原爆は二つの都市を破壊しつくしました。あれから80年。悲惨な戦争の実相と平和の大切さを学ぶ甲賀市の「広島平和記念事業」。今年も8月6日の広島平和記念式典に市内小学校6年生15名が参加しました。

5日早朝、市役所ロビーで開かれた広島平和記念事業の出発式では、伴孝史副市長が「この事業は今年で17回目。これまで347人の子どもが参加するなど、県内でも唯一の平和の取組。しっかりと学んで来てください」と激励の挨拶を述べた後、子どもたちの代表が「広島での平和学習を通して、戦争の悲し

さや平和の大切さを学び、広島で感じたことを家族や友達に伝えられるようにしっかりと見聞きして心に刻みたい」とあいさつしました。市内の子どもたちが折った3700羽の折鶴が託されました。

一行は、5日は原爆ドームや広島平和記念資料館などを見学、6日8時からの平和広島記念式典に参列、ひろしま子ども平和の集いに参加されました。8月24日開かれる「語り継ぐ平和への思い」では、子どもたちの感想文が披露されるとともに、広島から伝承講和会も開かれます。午後2時半からあいこく市民ホール展示室で。

滋賀県反核平和連絡会自治体訪問

県内で平和運動に取り組む団体で構成されている滋賀県反核平和連絡会が1日、甲賀市を訪問。市から「反核平和都市宣言」に基づく平和施策の内容などの説明を受け、懇談しました。今年度の主な平和施策は、広島平和記念事業、被爆体験伝承講話会（8月24日午後2時半から）、平和を願うパネル展（8月1日～8日）、など。また中学校の修学旅行は、沖縄と長崎で平和学習を兼ねるとのことでした。懇談には、日本共産党の岡田重美・西山実議員も同席しました。

建設反対の意見が続出

県内最大規模の安定型産業廃棄物最終処分場建設計画で地元説明会

南土山地先にて計画されている県内最大規模の安定型産業廃棄物処分場建設計画について、7月25日と26日、8月4日に土山開発センターにて「事業計画、環境影響評価方法書」についての住民説明会が開催されました。

主な発言として、「安定型と呼ばれるが、様々な過去の失敗事例、問題が指摘されており、水質汚染等絶対安全なのか、搬入点検で安全性が本当に担保できるのか心配」、「目の前に産廃のあるところには住みたくない、ましてや排水が流れる川では遊べない。土山のお茶、野菜などの風評被害も心配、不安を抱えて生きていかなければならない」、「南土山の住民にとって何一つ良いことはない、設置に反対する」、「15t車を大澤地域通すことは誰が決めたのか、知事の意見書にも『周辺や下流地域の住民に対して積極的な情報提供や対話を行うよう努めること』とある。しっかりと協議してほしい」。など、反対する意見が多く寄せられました。説明会には、日本共産党議員団も参加しました。

最終処分場事業計画 事業区域約26.0ha 22年間使用
埋立面積：約11.8ha、埋立容量：約215万m³
搬入時間：午前8時～午後5時（※日・祝日除く）
一日搬入台数：15t車16台、4t車2台、2t車2台程度
種類：廃プラスチック類、ガラス陶磁器くず、がれき類

獣害対策で研修

甲賀市議会産業建設常任委員会では、鳥獣被害対策について、7月29日に兵庫県丹波篠山市、30日に岡山県美作市を訪問し、研修しました。

美作市の取り組みの特徴は、獣肉処理施設を整備し、ハンターによる自己処理から、食用と減容化を担う施設をつくって、食肉やペットフードへの利用、肉利用できない個体は乾燥させて減容化。加工処理施設と減容化施設を併設して、一括して指定管理していることです。甲賀市でも獣害被害は増えており、効果的な対策を考える機会になりました。（西山実記、写真は美作市で）

日本共産党

甲賀市議員団ニュース

2025年 8月10日 第549号



山岡 光広
甲南町森尻 16
Tel 86-2985
Fax 86-0415



岡田 重美
土山町南土山甲 78-15
Tel 66-0696
Fax 66-0696



西山 実
水口町本丸 3-28
Tel 62-3044
Fax 62-3044